

化学辞典

化学辞典
編集委員会
編

丸善株式会社

序

化学工業で常用されている物質や術語を簡明に解説する目的で工業化学辞典が出版されたのは昭和 16 年であるが、幸いこの辞典は多くの人に利用されて好評を博し、終戦後も写真版によって 6、7 版を発行した次第である。しかし昭和 16 年頃と戦後とでは学術、技術等に甚だしい差があるので、早急にこの改訂増補を行う必要があることを感じ、昭和 26 年からその準備に着手した。学術技術の進歩によって、基礎と応用の分野はますます区別がつけ難くなり、また応用分野の工業化学と農芸化学、薬学などとの相互関連も一層緊密になってきているために、この機会に辞典の内容を工業化学に限定せず、基礎化学、理論化学、薬学などの項目を新しく追加して、内容を工業化学辞典の約 2 倍に増し、書名も化学辞典として編集、出版することにした。

化学の研究や化学工業に従事しているものがしばしば感ずる不便は、自分の専門以外の術語の意味などを簡単に知る書物がないことである。専門が多岐にわたり深くなるに従って、書物や雑誌の数が増し、これらを自ら備えることはもちろんのこと、研究所や工場の図書室に完備することも容易でない。また専門書があるとしても、その中から自分の知ろうとする事柄を調べることは至って煩雑であり、多くの時間を費してしかも要領を得ないことさえある。本書はこの目的にそうためになるべく多くの小項目をとりあげ、これを簡単明快に要領のみを説明して化学に関係のある研究者、技術者、工業家のよい座右の友たらんことを期したものである。簡明を主旨としたために項目によつては或は説明不十分な所があるかも知れないが、それぞれの専門家により執筆された内容は簡にして要を得ており、本書の利用者に一応の満足を頂けるものと信じている。しかしなお項目の不足や説明の不備などの点があることは避け難いと考えられるので、これらについては後日改版毎に訂正増補する予定である。

昭和 29 年 9 月

化学辞典編集委員会

化学辞典編集委員会委員

幹 事 桑 田 勉

東京大学教授	薬学博士	秋 谷 七 郎	医薬
東京大学名誉教授	工学博士	厚 木 勝 基	繊維, 紙, 糖類, 發酵, 食品, 火薬
東京大学名誉教授	工学博士	亀 山 直 人	無機化学, 電気化学, 光化学, 写真
東京大学教授	工学博士	桑 田 勉	有機化学, 樹脂, ゴム, 潤滑油, 香料
東京大学教授	工学博士	宗 宮 尚 行	分析化学
東京大学名誉教授	工学博士	田 中 芳 雄	油脂, 塗料, 顔料, 石油, 農薬
東京大学教授	工学博士	永 井 彰 一 郎	酸・アルカリ, 肥料, 珪酸塩化学
東京大学教授	工学博士	永 井 芳 男	染料, 中間物, 染色, 顔料, 有機化学
東京大学教授	工学博士	福 田 義 民	化学工学, 化学機器, 石炭, 燃料
東京大学教授	工学博士	牧 島 象 二	理論化学, 化学物理
東京大学助教授		向 坊 隆	電気化学, 金属冶金, 理論化学

凡 例

1. 本書は基礎化学、応用化学の全般にわたってなるべく多の項目を集めて解説したもので、説明はできるだけ簡潔にした。
2. 用語は必ずしも新制用語、制限漢字によらなかった。それは辞典の使命が将来に対するばかりでなく、過去や現在にも十分に便利であるべきだと考えたからである。
3. 新しく制定された化学学術用語の普及に資するため、英-化学新制用語の索引を設け、また独-英の索引を設けた。
4. 見出しの記載方法
 - i) 化学学術用語では術語はなるべく片かなを用いることになっているが、項目の見出しに便利のため語原が日本語のものは平かな、外来語は片かなで示す。
 - ii) 日本語には相当する漢字を掲げ、一部に外来語を含むときはその部分を——で示す。
 - iii) 項目の後に付した〔 〕は部門を示すもので、その語が記載部門で用いられる場合という意味である。
5. 項目の配列について
 - i) 長音符を無視して五十音順による。
 - ii) 促音は一音として取扱う。

万国原子量表

1955

元 素 名***	記号	番号	原子量**	元 素 名***	記号	番号	原子量**
亜鉛	Zinc	Zn	30 65.38	ツリウム	Thulium	Tm	69 168.94
アクチニウム	Actinium	Ac	89 227	テクネチウム	Technetium	Tc	43 [99]
アスタチン	Astatine	At	85 [210]	鉄	Iron	Fe	26 55.86
アメリシウム	Americium	Am	95 [243]	テルビウム	Terbium	Tb	65 158.93
アルゴン	Argon	A	18 39.944	テルル	Tellurium	Te	52 127.61
アルミニウム	Aluminum	Al	13 26.98	銅	Copper	Cu	29 63.54
アンチモン	Antimony	Sb	51 121.76	トリウム	Thorium	Th	90 232.05
イオウ	Sulfur	S	16 32.066 (±0.003)	ナトリウム	Sodium	Na	11 22.991
イットルビウム	Ytterbium	Yb	70 173.04	鉛	Lead	Pb	82 207.21
イットリウム	Yttrium	Y	39 88.92	ニオブ	Niobium (Columbium)	Nb	41 92.91
イリジウム	Iridium	Ir	77 192.2	ニッケル	Nickel	Ni	28 * 58.71
インジウム	Indium	In	49 *114.82	ネオジム	Neodymium	Nd	60 144.27
ウラン	Uranium	U	92 238.07	ネオン	Neon	Ne	10 20.183
エルビウム	Erbium	Er	68 *167.27	ネプツニウム	Neptunium	Np	93 [237]
塩素	Chlorine	Cl	17 35.457	白金	Platinum	Pt	78 *195.0
オスミウム	Osmium	Os	76 190.2	ハークリウム	Berkellium	Bk	97 * [249]
カドミウム	Cadmium	Cd	48 112.41	バナジウム	Vanadium	V	23 50.95
ガドリニウム	Gadolinium	Gd	64 *157.26	ハフニウム	Hafnium	Hf	72 *178.50
カリウム	Potassium	K	19 39.100	パラジウム	Palladium	Pd	46 *106.4
ガリウム	Gallium	Ga	31 69.72	バリウム	Barium	Ba	56 137.33
カリホルニウム	Californium	Cf	98 * [249]	ビスマス	Bismuth	Bi	83 209.00
カルシウム	Calcium	Ca	20 40.08	ヒ素	Arsenic	As	33 74.91
キセノン	Xenon	Xe	54 *131.30	フッ素	Fluorine	F	9 19.00
キュリウム	Curium	Cm	96 [245]	プラーセオジム	Praseodymium	Pr	59 140.92
金	Gold	Au	79 197.0	フランシウム	Francium	Fr	87 [228]
銀	Silver	Ag	47 107.880	プルトニウム	Plutonium	Pu	94 [242]
クリプトン	Krypton	Kr	36 83.80	プロトアクチニウム	Protactinium	Pa	91 231
クロム	Chromium	Cr	24 52.01	プロメチウム	Promethium	Pm	61 [145]
ケイ素	Silicon	Si	14 28.09	ヘリウム	Helium	He	2 4.003
ゲルマニウム	Germanium	Ge	32 72.60	ベリリウム	Beryllium	Be	4 9.013
コバルト	Cobalt	Co	27 58.94	ホウ素	Boron	B	5 10.82
サマリウム	Samarium	Sm	62 *150.35	ホルミウム	Holmium	Ho	67 164.94
酸素	Oxygen	O	8 16	ポロニウム	Polonium	Po	84 210
ジスプロシウム	Dysprosium	Dy	66 *162.51	マグネシウム	Magnesium	Mg	12 24.32
臭素	Bromine	Br	35 79.916	マンガン	Manganese	Mn	25 54.94
ジルコニウム	Zirconium	Zr	40 91.22	メンデルビウム	Mendelevium	Mv	101 [266]
水銀	Mercury	Hg	80 200.61	モリブデン	Molybdenum	Mo	42 95.95
水素	Hydrogen	H	1 1.0080	ユーロピウム	Europium	Eu	63 152.0
スカンジウム	Scandium	Sc	21 44.96	ヨウ素	Iodine	I	53 126.91
スズ	Tin	Sn	50 118.70	ラジウム	Radium	Ra	88 226.05
ストロンチウム	Strontium	Sr	38 87.63	ラドン	Radon	Rn	86 222
セシウム	Cesium	Cs	55 132.91	ランタン	Lanthanum	La	57 138.92
セリウム	Cerium	Ce	58 140.13	リチウム	Lithium	Li	3 6.940
セレン	Selenium	Se	34 78.96	リン	Phosphorus	P	15 30.975
タリウム	Thallium	Tl	81 204.39	ルテチウム	Lutetium	Lu	71 174.99
タンガステン (ウォルフラム)	Tungsten	W	74 *183.86	ルテニウム	Ruthenium	Ru	44 101.1
炭素	Carbon	C	6 12.011	ルビidium	Rubidium	Rb	37 85.48
タンタル	Tantalum	Ta	73 180.96	レニウム	Rhenium	Re	75 *186.22
チタン	Titanium	Ti	22 47.90	ロジウム	Rhodium	Rh	45 102.91
窒素	Nitrogen	N	7 14.008				

* は 1968 年に比して原子量の變動したものを。

** [] 内は最も長い半減期をもつ同位元素の質量数。

*** 元素名は学術用語集 (化学編) によった。

元素の周期律表

族 周期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	O
1	${}^1_1\text{H}$								${}^2_2\text{He}$
2	${}^3_3\text{Li}$	${}^4_4\text{Be}$	${}^5_5\text{B}$	${}^6_6\text{C}$	${}^7_7\text{N}$	${}^8_8\text{O}$	${}^9_9\text{F}$		${}^{10}_{10}\text{Ne}$
3	${}^{11}_{11}\text{Na}$	${}^{12}_{12}\text{Mg}$	${}^{13}_{13}\text{Al}$	${}^{14}_{14}\text{Si}$	${}^{15}_{15}\text{P}$	${}^{16}_{16}\text{S}$	${}^{17}_{17}\text{Cl}$		${}^{18}_{18}\text{Ar}$
4	${}^{19}_{19}\text{K}$ ${}^{20}_{20}\text{Ca}$ ${}^{21}_{21}\text{Sc}$ ${}^{22}_{22}\text{Ti}$ ${}^{23}_{23}\text{V}$ ${}^{24}_{24}\text{Cr}$ ${}^{25}_{25}\text{Mn}$ ${}^{26}_{26}\text{Fe}$ ${}^{27}_{27}\text{Co}$ ${}^{28}_{28}\text{Ni}$ ${}^{29}_{29}\text{Cu}$ ${}^{30}_{30}\text{Zn}$ ${}^{31}_{31}\text{Ga}$ ${}^{32}_{32}\text{Ge}$ ${}^{33}_{33}\text{As}$ ${}^{34}_{34}\text{Se}$ ${}^{35}_{35}\text{Br}$ ${}^{36}_{36}\text{Kr}$								
5	${}^{37}_{37}\text{Rb}$ ${}^{38}_{38}\text{Sr}$ ${}^{39}_{39}\text{Y}$ ${}^{40}_{40}\text{Zr}$ ${}^{41}_{41}\text{Nb}$ ${}^{42}_{42}\text{Mo}$ ${}^{43}_{43}\text{Tc}$ ${}^{44}_{44}\text{Ru}$ ${}^{45}_{45}\text{Rh}$ ${}^{46}_{46}\text{Pd}$ ${}^{47}_{47}\text{Ag}$ ${}^{48}_{48}\text{Cd}$ ${}^{49}_{49}\text{In}$ ${}^{50}_{50}\text{Sn}$ ${}^{51}_{51}\text{Sb}$ ${}^{52}_{52}\text{Te}$ ${}^{53}_{53}\text{I}$ ${}^{54}_{54}\text{Xe}$								
6	${}^{55}_{55}\text{Cs}$ ${}^{56}_{56}\text{Ba}$ ${}^{57}_{57}\text{La}$ ${}^{58}_{58}\text{Ce}$ ${}^{59}_{59}\text{Pr}$ ${}^{60}_{60}\text{Nd}$ ${}^{61}_{61}\text{Pm}$ ${}^{62}_{62}\text{Sm}$ ${}^{63}_{63}\text{Eu}$ ${}^{64}_{64}\text{Gd}$ ${}^{65}_{65}\text{Tb}$ ${}^{66}_{66}\text{Dy}$ ${}^{67}_{67}\text{Ho}$ ${}^{68}_{68}\text{Er}$ ${}^{69}_{69}\text{Tm}$ ${}^{70}_{70}\text{Yb}$ ${}^{71}_{71}\text{Lu}$								
7	${}^{87}_{87}\text{Fr}$ ${}^{88}_{88}\text{Ra}$ ${}^{89}_{89}\text{Ac}$ ${}^{90}_{90}\text{Th}$ ${}^{91}_{91}\text{Pa}$ ${}^{92}_{92}\text{U}$ ${}^{93}_{93}\text{Np}$ ${}^{94}_{94}\text{Pu}$ ${}^{95}_{95}\text{Am}$ ${}^{96}_{96}\text{Cm}$ ${}^{97}_{97}\text{Bk}$ ${}^{98}_{98}\text{Cf}$ ${}^{99}_{99}\text{Es}$ ${}^{100}_{100}\text{Fm}$ ${}^{101}_{101}\text{Md}$ ${}^{102}_{102}\text{No}$ ${}^{103}_{103}\text{Lr}$								

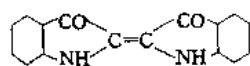
ランタニド元素
アクチニド元素

あ

あアンチモンさん 亜——酸 Antimonious acid オルト、メタ、ピロの3種がある。

吐酒石($K(SbO)C_4H_4O_6$)に稀薄硫酸を添加して分解すると、白色沈澱のオルト亜アンチモン酸 H_3SbO_3 を生ずる。三硫化アンチモンを苛性カリの溶液に溶かして煮沸し白色沈澱を生ずるまで硫酸銅溶液を加え、濾液に酢酸を加えるとピロ亜アンチモン酸($H_4Sb_2O_5$)の沈澱を生ずる。また吐酒石に炭酸アルカリを加えて分解するとメタ亜アンチモン酸($HSbO_3$)が得られる。

あい 藍 Indigo 暗青色の建築染料インジゴイド系に属する。工業的には Heumann のフェニルグリシン法またはアニリンとクロルヒ

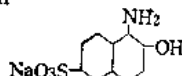


ドリンを用いる方法でつくる。リウコ化合物は白色で

よく水に溶け白藍といわれる。木綿、麻、羊毛、絹等の建築、染色に用いその応用範囲は広い。塩素その他の酸化剤に弱い。合成インジゴの世界生産額は千万キロを超える。日本での主メーカーは三井化学会社。天然藍からもとれる。

アイコノゲン Eikonogen

写真現像薬の一種。1-アミノ-2-ナフトール-6-スルホン酸のナトリウム塩。



アイシングラス Isinglass 魚類の浮袋を水と煮て得られるゼラチン。スタレロプロテインに属し、無色無臭半透明で45~50°Cの温水に溶解し、冷却すれば無色のゼリーとなる。ソ連ではチョウザメの浮袋から多量にこれをつくる。浮袋を紙状に乾かしたものをリーフ・アイシングラス leaf isinglass と称し、多数を重ね合せたものをブック・アイシングラス book isinglass という。また捲いたものをステープル・アイシングラス staple isinglass と呼ぶ。支那アイシングラス Chinese isinglass は藻類で真のアイシングラスではない。葡萄、酒その他の酒類の清澄剤として多く使用される。

アイソトープ Isotope 同位元素に同じ。

アイボリー・ブラック Ivory black 象牙屑、牛骨、その他獣骨の骨を乾燥炭化させて得られる優良な黒色顔料。ボーンブラックはその品質のやや劣るもの。炭素15~20%の外に多

量の磷酸石灰を含む。

アイロナック Ironac 耐酸鉄合金の一種。珪素鉄から成り Si 約15%を含有する。主に硫酸工場の揚酸、煮結、濃縮装置等の耐酸部分に用いる。

アイロール Airoil →次没食子酸エーテル

アインシュタイン[光化学] Einstein エネルギーの単位の一つ。1グラム分子に相当した光子数即 $Nh\nu$ ($N=6.023 \cdot 10^{23}$) をいう。光化学当量の法則を提唱した Einstein の名をつけたもの。→光子

アウエルゴウキン ——合金 Auer's metal Ce 族金属 65~90%, Fe 10~35% の合金で Welsbach の発明になる発火合金、点火器、ライター等に使用される。

アウリン Aurine ロゾール酸に同じ。

あえん 亜鉛 Zinc, Zn 原子量65.38, 原子番号30, 第Ⅱ族元素。有用な金属で硫化亜鉛を焙焼して酸化亜鉛としこれを炭素で還元蒸溜してつくるか或は硫酸亜鉛の水溶液を電解してつくる。真鍮、洋銀などの合金としてまた鉄線、鉄管、鉄板の亜鉛鍍、電池の陰極剤に用いられ還元剤として化学工業に用いられる。

あえんおう 亜鉛黄 Zinc chrome, Zinc yellow 淡黄色の顔料。主成分はクロム酸亜鉛 $ZnCrO_4$ であるが、遊離の $K_2Cr_2O_7$ 及び ZnO をも含む。亜鉛華を水に乳状に分散させて置き、適量の硫酸を加えて一部を $ZnSO_4$ に変じた上、 $K_2Cr_2O_7$ 水溶液を加えてつくった沈澱をこし集め、洗浄、乾燥したもの。主にベント用黄色顔料として使用される。

あえんか 亜鉛華(酸化亜鉛) Zinc white, ZnO 亜鉛を熱して気化させ空気中で燃してつくる。白色の微粉末で顔料として塗料の製造に用いる外、ゴム、化粧品、医薬等の製造に用途が多い。亜鉛華は弱酸並びに苛性アルカリに溶ける。

あえんこうロジン 亜鉛硬化—— Zinc hardened rosin ロジンを亜鉛華で一部分中和した硬化ロジンの一種。普通に亜鉛華と石灰とを混用して中和を行う。→硬化ロジン

あえんそさん 亜塩素酸 Chlorous acid,

HClO_2 二酸化塩素 (ClO_2) を水に溶かすと塩素酸 (HClO_3) と共に生ずる。甚だ不安定な酸で稀水溶液としてのみ存在する。酸化性が強い。

あえんそさんえん 亜鉛素酸塩 Chlorite
二酸化塩素 (ClO_2) をアルカリ溶液に吸収させれば塩素酸塩と共に水溶液として生ずる。不安定な塩。酸化性が強いが晒粉に比し、布、紙等の繊維を痛めないで、高級漂白剤として用いられる。例、 NaClO_2 。

あえんまつ 亜鉛末 Zinc dust, Blue powder
亜鉛の蒸気を冷却して得る微粉末で、その表面には酸化亜鉛の薄層がある。還元剤として有機及び無機の化学工業に用いられる。

あえんみどり 亜鉛緑 Zinc green
緑色の顔料。この名のものに2種ある。(1) 亜鉛黄と紺青とを沈澱時に混合したもの。(2) 主成分が CoO と ZnO との混合物でコバルト緑ともいい、この製法には種々ある。例えばコバルト及び亜鉛の塩化物 (或は硫酸塩) の混合水溶液に苛性ソーダ又は苛性カリを加えて得る沈澱を乾燥し灼熱する。

あおかびぞく 青かび属 Penicillium
黴菌族に属する糸状菌で淡緑乃至青緑色の分生子を形成する。担子柄条は繁多の横壁を有する。屋内その他到る処に繁殖する。ジアスターゼその他の酵素を分泌するが酸酵上未だ応用されない。ペニシリンを分泌する。

あおじゃしん 青写真 Blue print, Cyanotype
写真の一種で簡単な縮図などの複写に用いる。第二鉄塩 (Fe^{++}) が光に照らされて第一鉄塩 (Fe^{+}) に還元され、 Fe^{+} が赤血塩と青色を呈することを利用する。クエン酸或は酢酸の第二鉄塩と赤血塩との混合水溶液を紙に塗ってある。

あおたけ 青竹 マラカイトグリーン の俗称。

あおもじゆ —— 油 Aomoji-yu 屋久島、種子島、鹿児島県その他九州地方に野生するクスノキ族の *Aperula Citrifolia* の種子を水蒸気蒸溜して得る。60~75% のシトラルを含み、シトラル資源として有望視される。

あかうるし 赤漆 Red Japan lacquer, Red Urushi 朱合漆に朱、またはベンガラなどをねり合せた赤色の漆。

アカシアゆ —— 油 Oil of acacia カッレイ油とミモサ油の2種類ある。→カッレイ油、ミモサ油

あかね 茜 Madder 茜草の根の粉末。アリザリン及び少量のプルプリンを含む。古代から赤色染料として使われたがアリザリン合成法発明以来染料としては殆んど用いられていない。

あかゆ 赤油 Akayu →樟脳油
あかれんが 赤煉瓦 Common brick 砂質粘土に時にはその粘性、可塑性を調節するため砂などを少量加え、水で混練し成形し空気乾燥して多くの場合は輪窯 (ring kiln) で約 900~1,000°C で焼成してつくる。日本標準規格による寸法は長さ 210mm 幅 100mm 厚さ 60mm で上焼一等及び二等、並焼一等及び二等に区分され、吸水率は上焼は 14% 以下、並焼は 18% 以下、耐圧強度は上焼は 150 kg/cm² 以上、並焼は 100 kg/cm² 以上、重量は大体 1 個 2.3~2.5 kg 位、寸法の公差は長さで ± 3% 厚さで 4% 位。

アカロイド Resin —— 樹脂 Acaroid resin 赤色と黄色の2種があり、前者は *Xanthorrhoea australis*, 後者は *Xanthorrhoea hastilis* から採取する。小塊状をなしアルコールに溶けベンゼンに不溶。主成分は樹脂エステルで、用途はワニス、皮革、紙、石鹼の製造等。

アクアダグ Aquadag 軽質の人造黒鉛をタンニン酸、またはその他の植物質を保護コロイドとして水に分散させた固体潤滑剤。長時間放置しても、或は水でうすめても黒鉛粒子は沈澱し、または凝集することがない。ドイツではヒドロゾル Hydrosol という。

アクアテントとっばん —— 凸版印刷 Aquatint 水彩画に似た印刷物を得る製版法で、銅板上に樹脂或はアスファルトの粉末を撒布し、少しく加熱溶融させ、その上に耐酸性のワニスで印刷せんとする面の陰面に相当する版模様を描きこれを塩化鉄の溶液で腐蝕し所要の版を得る。

アクチゾール Actisol phenylazodiaminopyridinemethane-sodium sulfonate $\text{C}_6\text{H}_5\text{-N=N-C}_6\text{H}_4\text{-N}_2\text{-CH}_2\text{-SO}_2\text{Na}$ を主成分とするもので化膿性疾患、例えば丹毒、敗血症、産褥熱等に有効。

アクチニウム Actinium, Ac 放射性元素。原子番号 89。228, 227, 226 の同位元素がある。放射母体のプロトアクチニウム Pa と共にウラン鉄中に存在する。ウラン Y (Uy) から Pa, Ac を経てアクチニウム D に至る放射性元素崩壊系統をアクチニウム系と称し、ウラニウ

ム系及びトリウム系等と共に放射系統の一をなしている。

アクチノン Actinom, An 放射性元素、原子番号 86、質量数 219。気体、化学的性質は明かでない。ウラニウム系のラドン（ニトン、ラジウムエマナチオン）に相当するアクチニウム系の元素。

アークとう — 燈 Arc lamp 電極の間の空間で、高温度の蒸気が電流の連続的通過によって輝いている様な形式の放電をアークといい、これを利用した電燈。アーク燈の発光は必ずしもアークのみによるのではない。水銀アーク燈では光は全部はアークによるが、炭素アーク燈では、アークによる光は 5% に過ぎず、95% は高温の炭素電極の温度輻射である。炭素アークの温度は 3,000°C 以上に上るが、水銀アーク燈は石英管を用いた高温のもので約 1,400°C、低温のものは 100~150°C である。炭素アーク燈は主として映画撮影や映写、探照燈の如き高照度の光源として用いられ、水銀燈は主として紫外線光源として、青写真の焼付、殺菌、医療用などに用いる。これ等の他に、タングステンアーク燈や、ナトリウムアーク燈（ナトリウムランプ）などがある。

アグノステロール Agnosterol, C₃₀H₄₈OH 羊毛脂中の所謂イソコレステロール中に少量含まれる。構造未詳。

アグファカラー Agfa color ドイツのアグファ社が発売している内式多層式天然色写真フィルム。

アグファレキビュー — 色表 Agfa color chart ラゴリオ色表と同原理で同じ目的に使用される。但し前者に比べて色帯が赤、黄、緑、青の 4 本である点が違っている。つまりラゴリオ色表を単純化したもの。→ラゴリオ色表

アグリコン (アグルコン) Aglycon, Aglucon 配糖体の糖以外の成分。

アクリジン Acridine 無色針状結晶、融点 111°C、沸点 346°C。塩基性を示す安定な化合物。コールダール中に含有される。ジフェニルアミン及び蟻酸を塩化亜鉛と共に加熱すれば生成する。アクリジン染料の母体。

アクリジン・エロー Acridine Yellow 黄色の塩基性染料。黄色粉末。水、アルコール

に黄色に溶け、緑色螢光を呈する。ホルマリオンと m-トルイレンジアミンとを無機酸で縮合、次いで塩酸と 150°C に加熱し、生じたリウコ塩基を塩化鉄で酸化してつ

くる。タンニン・吐酒石媒染の木綿を鮮明な純黄色に、絹を緑色螢光ある帯緑黄色に染める。尙 half silk, 麻、黄麻にも用いられ、着色拔染は塩化錫とハイドロサルファイトで、白色拔染は塩素酸で行われる。

アクリジン・オレンジ R Acridine Orange R 橙色の塩基性染料。フェノアクリジン類の一種。橙赤色粉末。水に橙黄色に溶け、アル

コールにては緑色螢光を帯びる。ベンズアルデヒドと m-アミノジメチルアニリンとをアルコール中塩酸で

縮合、次いで酸加熱、塩化鉄酸化を経てつくる。タンニン・吐酒石媒染木綿を橙色に染める。

アクリジン・オレンジ NO Acridine Orange NO 橙色の塩基性染料。橙赤粉末。

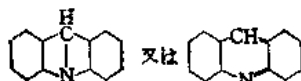
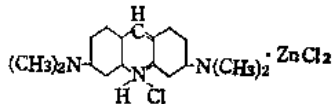
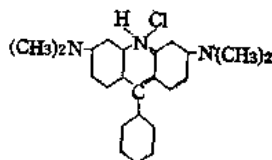
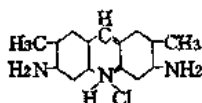
水、アルコールに橙黄色に溶け緑色螢光を呈する。ホルマリオンと m-アミノジメチルアニリンの縮合物た

るナトラメチルナトラアミノジフ

フェニルメタンを無機酸と加熱し、次いで塩化鉄で酸化してつくる。市販品は塩化亜鉛の複塩。タンニン・吐酒石媒染の木綿を橙黄色に、絹を石鹼浴にて、緑色螢光ある橙黄色に染める。尙、キョウコ捺染、皮革の染色にも用いられる。日光、石鹼水にかなり堅牢。

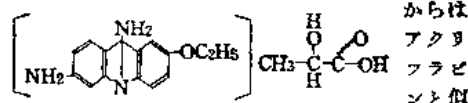
アクリジンゼンリョウ — 染料 Acridine dyestuffs 分子内にアクリジン環を有つ染料で専らアミノ基を助色団とする塩基性染料が多い。アクリジン環は発色能力が比較的に弱いため赤色以上の深褐色は未だ得られていない。合成法としてはアルデヒド類 1 分子、m-ジアミン類 2 分子を縮合せしめるのが最も普通。アクリジン・エロー、アクリジン・オレンジ NO、アクリジン・オレンジ R、ホスフィン等があり、殊にトリバフラビン（医薬用にも供せられる）。

アクリナミン Acrinamin アテプリンの日本名。→アテプリン



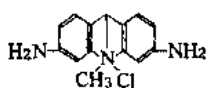
4 アクリノール

アクリノール Acrinol 局方品で、2-ethoxy-6,9-diaminoacridine lactate. 化学構造



からはアクリフラビンと似ており、アクリフラビンと同一目的に用いる。但し本品の特長はアクリフラビンと異って、動物組織から病的な分泌物の排泄を促進させ、新生組織の増殖を来す。化膿球菌の感染症に卓効がある。リバノール Rivanol「バイエル」等の製品がある。

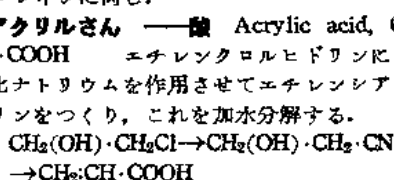
アクリフラビン Acriflavin 局方品で、3,6-diamino-10-methylacridinium chloride.



深達性の殺菌消毒剤で、その力は昇汞よりも強いが緩慢に作用する。用法は伝染性疾患に0.2~2%液5~10ccを静脈注射、皮膚疾患、外傷に0.1~1%水又はアルコール液、産褥料として2%液を用いる。トリバフラビン Trypaflavin, イスラビン Isravine 等の製品がある。

アクリラルデヒド Acrylaldehyde アタロレインに同じ。

アクリルさん ——酸 Acrylic acid, $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{COOH}$ エチレンクロロヒドリンにシアン化ナトリウムを作用させてエチレンシアンヒドリンをつくり、これを加水分解する。



水に可溶性の無色液体で刺激臭を有する。沸点139~140°C、融点13°C。このエステルはエチレンシアンヒドリンをアルコール中で酸で加水分解してつくる。過酸化ベンゾイル等の存在で重合させれば無色透明の樹脂を生じ、安全ガラスの貼合せ剤等に使用される。

アクリルさんじし ——酸樹脂 Acrylic acid resins アクリル酸 $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{COOH}$ 、メタアクリル酸 $\text{CH}_2=\text{C}(\text{CH}_3)\cdot\text{COOH}$ 、及びそれらのエステル類の重合によって得られる合成樹脂の総称。実用価値の多いのはアクリル酸メチル及びメタアクリル酸メチルの重合体で何れも無色透明、耐水性に富み光線の透過率大であるが前者は柔軟で主として塗料、三層安全ガラスの中間層に、後者は堅硬で有機ガラスとして用いられる。

アクリルニトリル (アクリロニトリル) Acryl nitrile, Acrylonitrile, $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{CN}$ 無色の

液体で弱い刺激臭を有する。沸点77.3°C、比重(20°C)0.8060、屈折率1.3888。アルコール、エーテル、石油エーテル等の有機溶剤に溶け、水には2~5%溶ける。各種の製法があるが、工業的にはエチレンオキシドと青酸からエチレンシアンヒドリン $\text{CH}_2(\text{OH})\cdot\text{CH}_2(\text{CN})$ をつくり、これを触媒を用いて脱水する。アセチレンと青酸から直接合成も可能。極めて重合し易く、室温でも重合を起して白濁し易い。フタジエンと共重合させてブナ N、ヘルブナン等をつくり、またポリアクリロニトリルを主体にした合成繊維はオーロン Orion と名づけ1949年 Du Pont 社から発表された。→ブナ N, オーロン

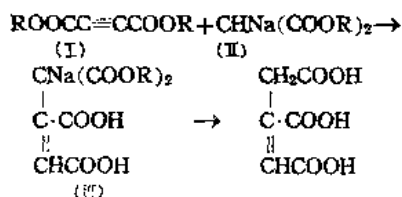
アクリロイド Acryloids アクリル酸系及びメタアクリル酸系樹脂の総称。

アクロデキストリン Achrodextrin 澱粉を酸または糖化酵素(ジアスターゼ)で加水分解する時はデキストリン(糊精)を得るが、そのデキストリン中分子量の最も小さいもの。冷水に溶解し、沃度で無色、 $[\alpha]_D^{20} = +180$ 。還元力がある。

アクロムさん 亜——酸 Chromous acid, H_2CrO_3 水酸化第二クロムの別名。両性を有し、酸性化合物として取扱われる時に亜クロム酸(H_2CrO_3)といわれる。苛性アルカリと作用して亜クロム酸塩を生ずる。

アクロレイン Acrolein, $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{CHO}$ グリセリンを酸性芒硝と共に強熱すれば容易に生成し、油脂を熱分解する際にも発生する。沸点52°Cの揮発性液体で猛烈な刺激臭を有する。

アコニットさん ——酸 Aconitic acid, $\text{HOOC}\cdot\text{CH}_2\text{C}(\text{COOH})\cdot\text{CHCOOH}$ トリカブト等の植物中にシス化合物として含まれるが、アセチレンジカルボン酸エステル(I)とナトリウムマロン酸エステル(II)との縮合物(III)を酸処理して得られる。



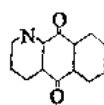
融点192°C(分解)の無色針状晶。安定なシス形は酸無水物を経て不安定なトランス形となる。

アゴメジン Agomensin 卵巣黄体の水溶性成分ルアアミンから成り月経促進作用を有する。月経閉止。月経不順。無月経。欠落症

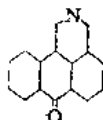
状、妊娠悪阻に錠剤 (0.02) 2~3 錠を 1 日に 3 回食後内服、または注射液 1~4cc (0.01~0.16) を 1 週 2~3 回皮下または筋肉注射する。Ciba 社の製品。

あさ 麻 Hemp, *Cannabis sativa* 桑科の一年性草本。丈 4~10 尺に達し、雌本と雄本とある。繊維の性状が異なる。日本では栃木県が主産地で長野、岩手、広島等にも産する。その韌皮繊維は強靱で織物、幕、帆布、索縄等に用い、その廃用品は製紙にも用いる。麻茎から繊維を採取するにはこれを水に浸し酸酵法で膠着剤たるペクチンを溶解し繊維束を分離する。アルカリで煮沸してもよいが繊維束ははぐれる。繊維は横断面多角形で壁厚く、長さ 20~60mm ある。これ等が集束して麻糸を作っている。

アザかごうぶつ ——化合物 Aza compound 分子中にピリジン環を有する多環式化合物をいう。これ等より導かれる



β-アザ-フントラキノン



Bz 2-アザ-ベンズアントロン

る建築染料は非光触媒性があり、堅牢且つ耐染性を有する。

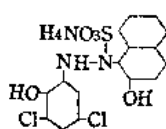
あさみゆ 麻実油 Hemp seed oil 大麻 (アサ) *Cannabis sativa* L. (桑科) の種子から主として圧搾法で得られる乾性脂肪油。乾燥性はアマニ油に比べてわずかに劣る。比重 (15°C) 0.925~0.928, 沃素価 148~157, 鹼化価 190~191。主成分はリノール酸、リノレン酸及びオレイン酸等のグリセリド。用途は食用、軟石鹸原料、燐用、ボイル油、ワニス等。

あざらしゆ ——油 Seal oil アザラシ (海豹) *Phoca vitulina* L. の脂肉から得られる脂肪油。沃素価 155, 鹼化価 191, 不飽和物 0.38%。外国産のアザラシ油は以上の如き日本産油に比し沃素価が低い。水素添加を行い硬化油となし得る。

アザリン Azaline 写真用増感色素。キノリン・レッドとキノリン・ブルーの混合物。緑色並びに黄色光線に対する乾板用に用いられる。

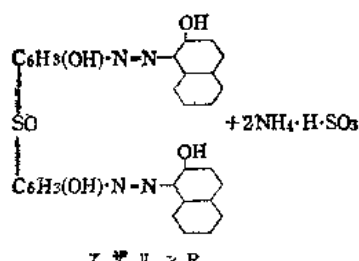
アザリン Azarine

アザリン S と R とある。S は黄色泥状体として市販する。SO₂ 臭あり、水に難溶、アルコールに易溶。1-アミノ-3,5-ジクロール-2-フ



アザリン S

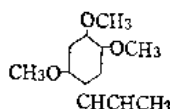
エノールをジアゾ化し、β-ナフトールをカップリングさせた後酸性亜硫酸アンモニ



ウムと加熱してつくる。アザリン R は橙赤色泥状体として市販される。SO₂ 臭あり、水に溶けアルコールに難溶。ジアミノジオキシスルホベンジドをテトラゾ化しβ-ナフトールをカップリングさせた後酸性亜硫酸アンモニウムで処理してつくる。共に木綿、人絹の浸染又木綿捺染に用いられ赤色を与える。

アサロン Asarone,

C₁₂H₁₆O₃ ショウブ油中に含まれる芳香のある結晶性体。融点 62°C, 沸点 296°C。



あさんかカドミウム 亜酸化——Cadmium suboxide, Cd₂O 薩酸カドミウムを 320~330°C に熱すると緑色の粉末が得られる。これは R. F. Marchand によると Cd₂O の分子式に相当するもので、亜酸化カドミウム又はヘミ酸化カドミウムと呼ばれる。

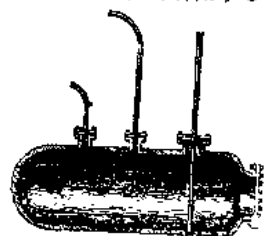
あさんかちっそ 亜酸化窒素 Nitrous oxide, N₂O 無色のガス。麻酔性がある笑気の名をもつ。酸素に似て薄、硫黄等を燃焼させる。比重 1.1 の硝酸を亜鉛または錫と作用させるか或は硝酸アンモニウムの固体を熱して得る。

あさんかどう 亜酸化銅 Copper suboxide →酸化銅

アシ Aci- 化合物が酸の如く作用することを示す接頭語。

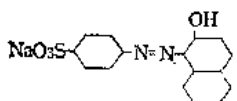
アシッドエック

Acid-egg 無機酸製造工場で酸液を塔の上部迄圧縮空気で揚げるのに使用する大きな卵形の揚酸装置。



アシッド・オレンジ II Acid Orange II

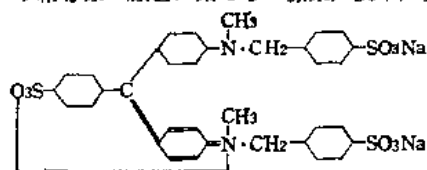
橙色の酸性アゾ染料。輝橙色粉末。帯黄赤色水溶。スルファニル酸をジアゾ化し、β-ナフトールとカップリングしてつくる。羊毛を酸性



6 アシッド・グ

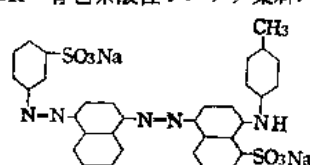
または中性浴で、また絹を酸性浴中で登色に染める。レーキ類の製造にも用いられる。

アシッド・グリーン Acid Green 緑色のカルボニウム染料の一種。トリフェニルメタン系の酸性染料。褐色粉末。緑色水溶、アルコールに難溶。ベンズアルデヒドとベンジル・メチルアニリンを縮合し、スルホン置換、酸化、次いでナトリウム塩とする。羊毛、絹を酸性浴より稍青味の緑色に染める。捺染、皮革、黄麻、



紙、レーキ、インキ等に用いられる。

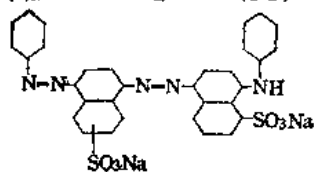
アシッド・シアニン Acid Cyanine i) ~ 5R 青色系酸性ジスアゾ染料。帯褐色粉末。



紫色水溶。メタニール酸をジアゾ化してα-ナフチル・アミンとカップリングし、

更に生成物をジアゾ化して p-トリル-α-ナフチルアミン-8-スルホン酸とカップリングしてつくる。羊毛、絹、毛絹交織を酢酸アンモニウム含有の中性浴より濃紺色に染める。次の GR より赤味がある。

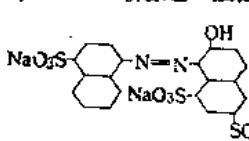
ii) ~ GR 青色系酸性ジスアゾ染料。暗褐色粉末。帯赤青色水溶。アニリンをジアゾ化し、α-ナフチルアミン-6 又は 7-スルホン酸とカップリングし、更に生成物をジアゾ化



して、フェニル-α-ナフチル-8-スルホン酸とカップリングしてつくる。羊毛、絹を微酸性浴より濃紺色に染める。

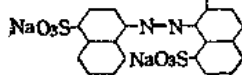
アシッド・スカーレット Acid Scarlet

i) ~ 3R 緋赤色の酸性アゾ染料。緋赤色粉末。



緋赤色水溶。ナフチオン酸をジアゾ化し、G酸とカップリングしてつくる。毛及び絹を光沢ある緋赤色に染める。捺染、食料品の着色。

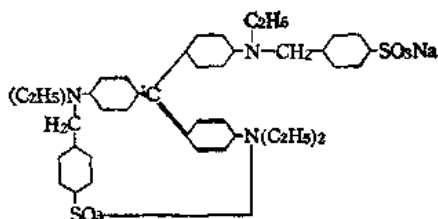
ii) ~ 3X 緋赤色の酸性アゾ染料。緋赤色粉末。帯黄赤色水溶。



ナフチオン酸をジアゾ化し、クロセイン酸とカップリングしてつくる。

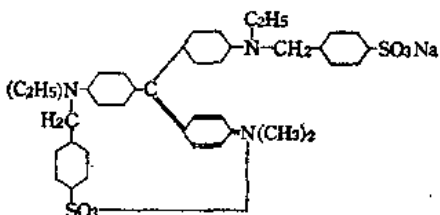
羊毛及び絹を酸性浴よりかなり均一系赤色に染める。比較的堅牢。捺染及び皮革の染色。

アシッド・バイオレット Acid Violet i) ~ 4B 紫色系の酸性トリフェニルメタン系の染料。帯青紫色粉末。アルコール、水に紫色可



溶。製法の一例は、ベンジルエチルアニリン・スルホン酸 2 モルとホルマリン 1 モルとを縮合させたジベンジルジエチルジアミノ・ジフェニルメタン・ジスルホン酸をジエチル・アニリンと共にクロム酸化する。羊毛、絹を酸性又は中性浴より帯青紫色に均染する。

ii) ~ 6B 紫色系の酸性トリフェニル・メタン系染料。帯青紫色粉末。アルコール、水に紫



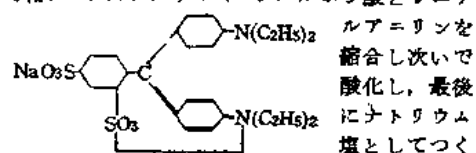
色可溶。ジメチル-p-アミノ・ベンズアルデヒドとエチル・ベンジルアニリン・スルホン酸と縮合して生じたジベンジル・ジエチル・ジメチル・トリアミノ・トリフェニルメタン・ジスルホン酸を酸化し、次いでナトリウム塩としてつくる。羊毛を酸性浴より帯青紫色に染める。

アシッド・ヒート Acid heat 分解ガソリン 150cc 及び濃硫酸 (93%) 30cc をデュアー瓶中に入れ、烈しく振りまぜた場合に上昇した温度。不飽和炭化水素の多いほど温度の上昇は高く、即ちアシッド・ヒートが大。例えば気相分解ガソリンのアシッド・ヒートは 200°F 以上。硫酸精製した液相分解ガソリンのアシッド・ヒート

トは 20~30°F, 水素添加ガソリンのそれは低く 5°F 位。

アシッド・ビュアブルー VX Acid Pure Blue VX

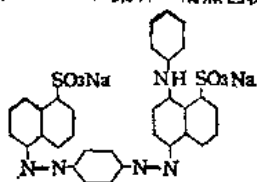
青色トリフェニルメタン系の酸性染料。藍色粉末, アルコール並びに水に青色可溶。ベンズアルデヒド・ジスルホン酸とジエチルアニリンを縮合し次いで酸化し, 最後にナトリウム塩としてつくる。羊毛, 絹を酸性浴より純青色に染める。ミツイ・アシッド・ビュアブルー VX といわれ, 他にダイアシッド・ブルー・フォアレキ X (Di-acid Blue for Lake X) は三酸化成の製品, ソーラー・ビュアブルー VX は住友化学の製品。



る。羊毛, 絹を酸性浴より純青色に染める。ミツイ・アシッド・ビュアブルー VX といわれ, 他にダイアシッド・ブルー・フォアレキ X (Di-acid Blue for Lake X) は三酸化成の製品, ソーラー・ビュアブルー VX は住友化学の製品。

アシッド・ファストブラック Acid Fast Black

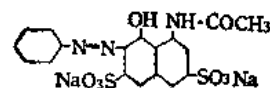
黒色系酸性ジスアゾ染料。褐黒色粉末。紫色水溶。アルコールに青緑色可溶。α-ナフチルアミン-5-スルホン酸をジアゾ化し, α-ナフチルアミンとカップリングし, 生成物を更にジアゾ化してフェニル-α-ナフチルアミン-8-スルホン酸とカップリングしてつくる。羊毛, 絹を中性または酢酸酸性の浴より青黒色に染める。堅牢。



生成物を更にジアゾ化してフェニル-α-ナフチルアミン-8-スルホン酸とカップリングしてつくる。羊毛, 絹を中性または酢酸酸性の浴より青黒色に染める。堅牢。

アシッド・ファストレッド 3G Acid Fast Red 3G

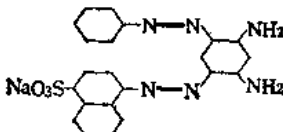
赤色系の酸性媒染モノアゾ染料。赤色粉末。アルコール難溶, 緋赤色水溶。アニリンをジアゾ化し, アルカリ性に於て N-アセチル-H 酸とカップリングせしめてつくる。羊毛を酸性浴より赤色に染め, クロム後処理により変色しない。配合成分として, 捺染に, 又レーキ製造用に用いられる。



に於て N-アセチル-H 酸とカップリングせしめてつくる。羊毛を酸性浴より赤色に染め, クロム後処理により変色しない。配合成分として, 捺染に, 又レーキ製造用に用いられる。

アシッド・ブラウン Acid Brown

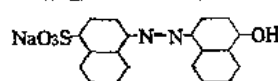
i) ~R a) 褐色系酸性ジスアゾ染料。褐色粉末, 褐色水溶。m-フェニレン・ジアミンにそれぞれアニリン並びにナフチオン酸をジアゾ化してカップリングせしめてつくる。羊毛を酸性浴より褐



色に染める。

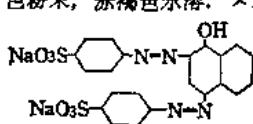
色に染める。

b) 褐色系の酸性媒染モノアゾ染料。暗褐色粉末, 褐色水溶。橙赤色アルコール溶。ナフチオン酸をジアゾ化してα-ナフトールとカップリ



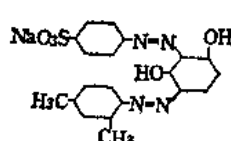
ングしてつくる。羊毛を酸性浴より帯褐橙色に染め, クロム後処理により褐色に変ずる。

ii) ~G a) 褐色系の酸性ジスアゾ染料。褐色粉末, 赤褐色水溶。スルファニル酸をジアゾ化し, α-ナフトールにカップリングしてつくる。羊毛を酸性浴より黄褐色に染める。皮革染色用。

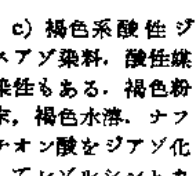
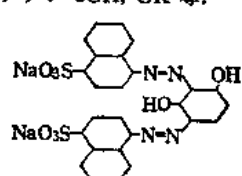


る。皮革染色用。

b) 性質 a) と類似。スルファニル酸並びに m-キシリジンとそれぞれジアゾ化し, レゾルシンとカップリングしてつくる。専ら皮革用染色。類似品, レゾルシン・ブラウン, レゾルシン・ブ



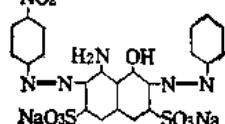
ラウン 5GK, GR 等。



ップリングしてつくる。羊毛を酸性浴より赤褐色に染め, 相当に堅牢。

アシッド・ブルーブラック 10B Acid Blue Black 10B

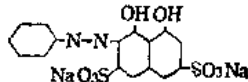
黒色系酸性ジスアゾ染料。暗褐色粉末, 黒青色水溶。アルコール溶。p-ニトロアニリンをジアゾ化し酸性に H 酸とカップリ



ングし, 次いでアニリンをジアゾ化し, 更にアルカリ性に於てカップリングせしめてつくる。羊毛を酸性浴より帯緑黒色に染める。なおこの染料は市場にある通常の黒色系酸性配合染料の基礎成分。

アシッド・フロキシン GR Acid Phloxine GR

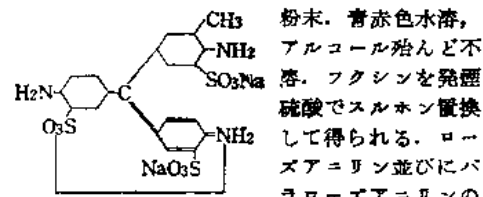
赤色系酸性媒染モノアゾ染料。褐赤色粉末, 帯微紫赤色水溶。アルコール難溶。1 モルのアニリンをジアゾ化して, 1 モ



色に染める。

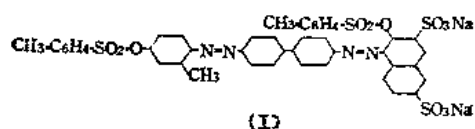
ルのクロモトローブ酸とアルカリ性にてカップリングしてつくる。羊毛を酸性浴より紫赤色に染め、クロム後処理により純青〜紫黒調となる。

アシッド・マゼンタ Acid Magenta 酸性トリフェニルメタン染料。緑色粒状又は暗赤色粉末。青赤色水溶、



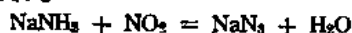
ジ並びにトリスルホン置換体の混合物であり、一般にはナトリウム塩となっている。羊毛を酸性浴より、絹を酸性石鹼浴より赤色に染める。顕微鏡用色素に用いられる。

アシッド・レッド PG Acid Red PG 赤色の酸性ジスアゾ染料。赤色粉末。冷水微溶、熱湯に橙赤色易溶。一般にヒドロキシ・ジスアゾ染料のスルホニル・エステルで、特に p-トルエン・スルホニルエステルの場合が多い。一例を挙げればベンジジンをテトラゾ化して、β-ナフトール-6・8-ジスルホン酸並びに m-クレゾールをカップリングし、次に p-トルエン・スルホクロリドにてエステル化すると、黄赤色の (I) を生



ずる。中性または酸性浴より羊毛、絹を赤色に染め、紡績、製斗に堅牢。木綿には染着性小。

アジド (アジ化物) Azide 窒化水素酸 (アゾイミド) N_3H の塩。ナトリウムアミドに窒酸化窒素を作用させればナトリウムアジドが得られる。



アルカリ塩は爆発しないが、鉛、銀などの塩は爆発する。アジ化鉛 (窒化鉛, PbN_3) は雷管の製造に用いられる。

あじのもと 味の素 Ajinomoto 成分はグルタミン酸ナトリウム。普通小麦 (蛋白質約 12%、蛋白質中のグルタミン酸 43.66%) 大豆 (蛋白質約 38%、蛋白質中のグルタミン酸 19.46%) を原料とし、これを粉末にして水と捏合し、蛋白質を採取し、これを 25% HCl で煮沸の下に分解して塩酸グルタミン酸とし、結晶として取り、精製し、重曹水で中和してグルタミン酸

ナトリウムとする。味の素会社製品、他社製品に風味等がある。

アジピンさん ——酸 Adipic acid, $HO_2C(CH_2)_4CO_2H$ 融点 $151^\circ C$ 、白色の結晶で水、含水アルコール液等から再結し得る。製法は種々あるが、工業的に最も多く行われるのは石炭酸を水添してシクロヘキサノールとし、これを硝酸で酸化する方法である。フルフラール



を酸化する製法もある。ナイロンの製造原料として重要で、その他に合成樹脂、可塑剤等の製造にも用いられる。→ナイロン

アジプロン Adipon スルファピリジンと同一組成。淋疾に有効で、肺炎にも有効という。→トリアノン

アジボせんいそ ——纖維素 Adipocellulose 非纖維素分としてロウ質及び脂肪質化合物を含有する纖維素で、コルクはその著例。但しその纖維素の本性に就いては疑問があつて明かでない。

アジボニトリル Adiponitrile, $NC(CH_2)_4CN$ 沸点 $295^\circ C$ 無色透明の重い液で ($d_{15}^{20}=0.951$) 酸化され易い。硝酸銅系、シリカゲル等を触媒とし $320\sim 350^\circ C$ でアジピン酸とアンモニア (1:30) を反応させてつくる。他の合成法もある。水添してヘキサミン $H_2N(CH_2)_6NH_2$ をつくる。重要なナイロン製造の原料。

あしょうさん 亜硝酸 Nitrous acid, HNO_2 無水亜硝酸 N_2O_3 を水水中に溶解させて得られる。不安定で少しく温めると分解して NO ガーを出し硝酸を生じ、又酸化剤によつても容易に硝酸になる。亜硝酸塩類は比較的安定。

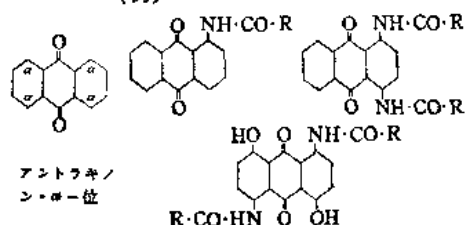
あしょうさんエステル 亜硝酸 Nitrous acid ester エチル及びアミルエステルが有用。それぞれのアルコールに亜硝酸カリと硫酸とを作用させてつくる。有機化学の試薬として用い、前者はリンゴ様の芳香を有するから、果実エッセンスの調合にも用いる。亜硝酸エチル ($C_2H_5NO_2$) は黄色液体で、沸点 $17^\circ C$ 。亜硝酸イソアミル ($C_5H_{11}NO_2$) は同じく黄色の液体で、その蒸気は $250^\circ C$ で分解する。

あしょうさんえん 亜硝酸塩 Nitrite 亜硝酸ガス N_2O_3 をアルカリ水溶液に通ずれば亜硝酸アルカリ塩を生ずる。工業的には硝酸アルカリを熱分解するか、或は鉛の如き金属で還元してつくる。主な亜硝酸塩は $NaNO_2$ 、 KNO_2 で

ともに無色潮解性の結晶。有機化合物のジアゾ試薬として染料、医薬等の製造に用いる。また NH_4NO_2 は容易に熱分解して N_2 と H_2O になる。

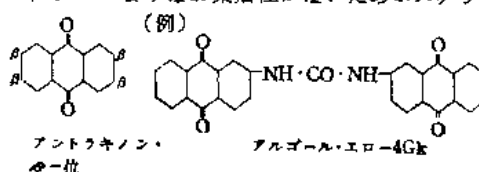
アジョワンゆ —油 Ajowan-seed oil
インド、エジプト、ペルシア等で栽培されるアジョワン *Carum ajowan* の果実を蒸気蒸留して得る。約 50% のチモールを含み、チモールの製造に供する。

アシル・アミノアントラキノン Acyl aminoanthraquinone アントラキノン系染料染料構造名の一類。α 形 繊維に対し殆んど染色性のない α-アミノアントラキノンをカルボン酸塩化合物 $\text{R}\cdot\text{COCl}$ と縮合させれば上記の如きアシルアミノ化合物となり、染色性を生ずる。(例)



ずる。アルゴール・エロー WG, インダンスレン・レッド 5GK, ヘブリリアントバイオレット BBK がある。

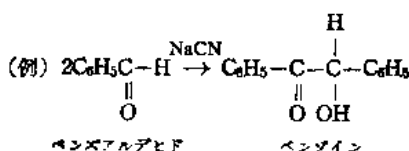
β 形 α よりなお染色性がないためホスゲン



の如きものでアシル化する。建化温度は一般に 40°C 附近以下を適当とする。

アシル基 —基 Acyl group 脂肪酸から OH を除いた残りの $\text{R}\cdot\text{CO}-$ の総称。例えば $\text{H}\cdot\text{CO}-$ をホルミル (formyl); $\text{CH}_3\text{CO}-$ をアセチル (acetyl); $\text{C}_2\text{H}_5\text{CO}-$ をプロピオニル (propionyl); $\text{C}_4\text{H}_7\text{CO}-$ をブチリル (butyryl) と称する。

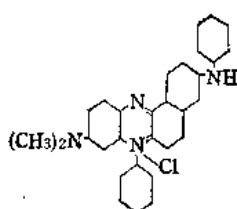
アシロインしゅくごう —縮合 Acyloin condensation アルカリシアニドの存在で 2 分子のアルデヒド RCHO が脱水縮合して RCOCHOHR 形のアシロイン化合物をつくる反応。この反応物は容易に酸化されてジケトンとなる。



アジン Azine i) $\text{RCH}\cdot\text{N}\cdot\text{N}\cdot\text{CHR}$ の構造の化合物。ii) 異種原子 2 個以上を含む 6 員環化合物で、N 原子 1 個以上をもつ化合物の総称。N, O を含むものを oxazine, N, S を含むものを thiazine, 2N を含むものを diazine という。異種原子が p-位置にある paradiazine 等は染料の一重要構造をなす。

アジン・グリーン S Azine Green S → アジン・グリーン GB

アジン・グリーン GB Azine Green GB
緑色系の塩基性アジン染料。暗緑色粉末、緑色水溶、アルコール溶、p-ニトロソ・ジメチルアニリン塩酸塩を 2-6-ジフェニル・ナフチレンジアミンと共にアルコール中に煮沸してつくる。

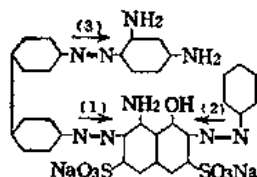


光、洗淨に堅牢。キャラコ棕染。アジン・グリーン S は GB をスルホン置換した酸性染料。羊毛を酸性浴より青緑色に染める。日光に堅牢。

アジンせんりょう —染料 Azine dyestuffs 分子内に (p-ジ) アジン環をもつキノニンイミン形染料で助色団としてはアミノ基をもち、その数、位置並びに構成環成分の種類によつて次の 6 種に分類される。即ちオイロージン類、キノキサリン類、アゴサフラニン類、サフラニン類、インジュリン並びにニグロシン類、アエリニン・ブラック。大多数は水溶性の塩基性染料であるが、また水に難溶のアルコール溶染料或はこれをスルホン置換したスルホン基をもつ酸性染料。大分子構造を有し不溶性のアエリニン・ブラック系の酸化染料等もある。この種の塩基性染料中には写真乾板用減感剤として用いられるものがある。例、フェノサフラニン。

アジン・ディーブラック EW Azine Deep Black EW 黒色系酸性ジスアゾ染料。灰黒色粉末、帯緑褐色水溶、アルコール不溶。ベンジ

ジンをテトラゾ化し、酸性にて1モルのH酸とカップリングし、別に1モルのアニリンをジアゾ化して、ア



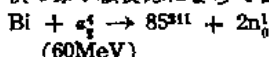
ルカリ性にて更にH酸とカップリングする。最後に1モルの m-フェニレンジアミンとカップリングを行ってつくる。木綿、交織、皮革の染色、キャラコ捺染に用いる。

アジン・プリントブラック Azine Print Black アジン・ディーブブラック EW に同じ。

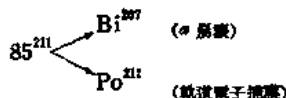
アスコルビンさん — 酸 Ascorbic acid ビタミンCに同じ。

あすずさん 亜錫酸 Stannous acid, H_2SnO_3 水酸化第一錫 ($Sn(OH)_2$) は両性を示すが、酸として働く時は亜錫酸という。濃厚なアルカリを作用させると亜錫酸塩 (Na_2SnO_3 , K_2SnO_3) のを得る。亜錫酸塩は著しい還元力を有する。

アスタチン Astatine, At 第85番元素。1932年発見が報ぜられ、Alabamine (Ab) と名付けられたが、一般には承認されず、1940年、D. R. Corson, K. R. Mac Kenzie, E. Segre により、次の原子核反応によって合成された。



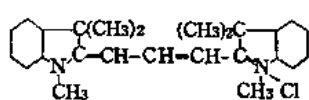
この元素の半減期は7.5時間で、次の如き崩壊をする。



“Astatine” は Corson 等によって命令され、不安定という意味。その後、天然放射能系列中に発見されたといわれ、また原子エネルギーの研究中、その同位元素が発見されたと報ぜられている。化学的には、ハロゲンの性質を有するが、沃素より更に金属的性質が強い。

アストモリジン Asthmolylin 1cc 中副腎エキース 0.0008g、脳下垂体エキース 0.04g を含むアンブール。喘息発作、狭心症発作等に 0.5~1cc を皮下注射或は吸入させる。Kade 社製品。

アストラ・フロキシシン FF Astraphloxine



FF 紅色
塩基のインド
レン系ポリ
メチン染料。

インドレン・レッドともいう。1・2・3-テトラ

メチル・ハロゲン化インドレニウムを正磷酸エチルエステルと共に無水酢酸溶液中に縮合してつくる。写真用感光色薬として用いられる他に日光に堅牢。繊維染色用に用いる。

アスパラギン Asparagine α-アミノサ

クシナミン酸でアミノ酸の一種。d-, l-及び不活性の3種がある。アスパラギンその他

多くの植物中に含まれる。

アスパラギンさん — 酸 Aspartic acid

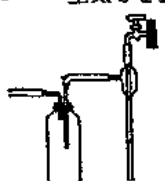
アミノサクシニン酸でアスパラギンの加水分解により生ずる。

アスピリン Aspirin アセチルサリチル

酸の商品名(バイエル会社)。→アセチルサリチル酸

アスピレーター Aspirator 空気等を吸

引する機器。この一種の水
流ポンプは水を狭い口から
噴出させ、水流が噴出する
場所では減圧を生ずることを
利用し空気などを抜き去る。



アスファルテン Aspha-

litene アスファルトの固体成分で石油エーテルに不溶。アスファルトの骨格をなす。その組織は複雑で不明。アスファルトの種類によって成分、性質が異なる。

アスファルト Asphalt 石油が天然にま

たは人工的に変化を受けて生ずる半固体乃至固体のピチューメン。天然アスファルトは天然に変化を受けたもので、Trinidad はその著名な産地。現今一般に使用されているものは石油類を人工的に変化させて製造したもので、人造アスファルト又は石油アスファルトと称する。天然アスファルトには硬さや純度に種々あり、最も硬いものはギルソライトである。石油アスファルトにも種類が多い。→石油アスファルト

アスファルトきげんゆ — 基原油 Asphalt

base crude oil 蒸留残渣として多量のアスファルトを残す原油。既して多量のナフタン炭化水素を含む。日本の秋田黒川、豊川の原油の如きはその例。

アスファルト紙 — 紙 Asphalt paper

紙の片面または両面にアスファルトを塗布したものと、2枚の紙をアスファルトで接合したものがある。クラフト紙を用いて後者の如く製したものはセメント、肥料等の包装用に多量に使用される。製法宜しきを得たものは殆んど完全